シャトーブラン ウェットタイプ（左官用）
取扱説明書

【内装仕上げの場合】

■ ご使用上の留意点

①シャトーブランは鏝仕上げしますので、鏝ムラなどの塗りムラを生じることがあります。
②シャトーブランは強アルカリ性です。施工時には、必ずゴム手袋などの保護具を着用してください。
③施工中または施工後の乾燥期間中に、気温が３℃以下になる恐れがある場合は施工ができません。
④浴室等、常に水のかかる場所には使用できません。
⑤シャトーブランは湿式の薄塗り仕上げ材ですので、下地の補強には寄与しません。下地の取付け不良などによる下地目地部分の割れなどには対応致しかねますので、不良個所は手直しした上で、シャトーブランを塗布して下さい。

■ 養生

①コンセントカバーは出来るだけ外しておきます。外したカバー部分にはマスキングを行い、汚れないようにします。
②外れない部品や木部等には、塗布するシャトーブランの厚み分より、少し多めに（３～４mm程度）壁から離してマスキングテープを貼ります。床面や天井面の境界にもマスキングテープを貼ります。
③シャトーブラン塗布時の汚れ防止の為、床にはマスカーを使用します。床がカーペットの場合は、めくるか外しておくほうが無難です。

■ 下地処理

シャトーブランを塗布する下地別に、下地処理方法が異なります。
下地処理方法の一例を参考下さい。

■ 仕上げ

下地処理材が完全乾燥してから仕上げます。
①シャトーブランをミキサーで練ります。偏った塊（ダマ）がなくなるまで良く混ぜます。練ったシャトーブランが硬い場合は、清水を加えて練り直します。
②シャトーブランを塗ります（下塗り）。下塗りは、0.75mm～1mm程度の厚さで、出来るだけ平滑に塗ります。下塗りした後、下塗り表面を一度平滑にならします。
③仕上げ塗りを塗ります（仕上げ塗り）下塗りの上に、もういちどシャトーブランを塗ります。仕上げ塗りは、0.75mm～１mm程度の厚さで塗ります。下塗りが乾かないうちに追いかけて仕上げ塗りを行います。仕上げ塗りした後、仕上げ塗り表面を平滑にならします。
④さらに平滑になるように、コテで数回押さえ表面を平滑にならします。シャトーブランは、時間の経過と共に表面乾燥が進み、表面が固くなっていきます。表面が柔らかい状態では平滑になり難く、表面が固くなると大きな凹凸の修正が困難になります。そのため、仕上げ塗り後のならしは、表面乾燥を見ながら、表面凹凸を修正し、平滑になるように複数回行います。また、さらに平滑にするためには、ある程度平滑になった状態から、柔らかいステンレス鏝などを使用します。

■ 養生外し及び乾燥

①マスキングテープなどの養生は、シャトーブランが乾かないうちにはがします。シャトーブランがテープに乗っている場合は、テープと一緒にシャトーブランが剥がれることがありますので注意が必要です。
②シャトーブランが乾かないうちは物が当たらないようにします。季節や天候により異りますが、２～３日程度で乾燥します。冬季の風通しの良くない場合など、乾燥しにくい状況では、２～３週間かかる場合があります。できるだけ風通しを良くして、早く乾燥が完了するようにしてください。

■ その他の留意点

①シャトーブランを保管する場合は、凍結、及び高温・多湿にならない場所にしてください。また、子供の手の届かない所に保管し、誤飲・誤食をしないようにしてください。
②誤って口に入った場合は多量の水で洗い流してください。誤って飲み込んだ場合は、医師の診断を受けてください。目に入った場合はこすらずに、多量の水で洗い医師の診断を受けてください。手や肌に付着した場合は、石けん水でよく洗い流し、痛みや皮膚に変化がある場合は医師の診断を受けてください。
③残った材料をやむを得ず廃棄する場合は、産業廃棄物として適切に処理して下さい。